

宮労基発1102第2号
令和3年11月2日

関係団体の長 殿

宮城労働局労働基準部長
(公 印 省 略)

社会福祉施設（介護施設）における労働災害防止に向けたより一層の取組について
（協力依頼）

～腰痛、転倒による労働災害が多発しています～

平素より、労働基準行政の推進につきまして、格段の御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、県内における社会福祉施設の労働災害による休業4日以上之死傷者は、令和2年は232件と近年増加傾向にあり、当局としては労働災害の重点業種と位置づけております。また、発生している労働災害の内訳を見ると、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」、次いで多いのが「転倒」による災害ですが、これらのうち1か月以上の休業となるものが約5割に達しており、大変憂慮すべき状況にあります。

介護施設利用者の安全・安心と同時に、腰痛や転倒の防止など介護従事者が安心して安全に働き続けられる環境を作ることが、事業を継続する上での重要な経営課題であると考えられ、女性や高齢者が益々活躍できる社会の実現のためにも、大変重要な課題です。

つきましては、傘下の会員に対し、下記の事項について、情報が行き渡るよう広く周知いただくとともに、労働災害防止に向けたより一層の取組の推進を図っていただきますよう、お願い申し上げます。

なお、本件に関連する資料等につきましては、宮城労働局ホームページ（https://jsite.mhlw.go.jp/miyagi-roudoukyoku/2/226/_121827.html）にも掲載しておりますので、併せてご活用ください。

| |
|---------------------------------|
| 担当 宮城労働局労働基準部 健康安全課 阿部、武田 |
|---------------------------------|

記

1 労働災害の特徴と現況の周知について

社会福祉施設における主な特徴は以下のとおりであり、別紙を活用した会員、関係者への周知により、労働災害発生状況が共有されますようお願いいたします。

- ① サービス系統別で分類すると、「施設系サービス」を提供する施設が最多であること。
- ② 事故の型別でみると、訪問系及び通所系サービスを提供する施設では、「転倒」が最多で、短期入所系、居住系、施設系、多機能系サービスを提供する施設では、「動作の反動・無理な動作」が最多であること。
- ③ 動作の反動・無理な動作を作業別にみると、「介助作業」での被災が84%であり、介助作業をより細かく分類すると、ベッド上での介助作業とベッド移乗作業を合わせて52%で、さらに介助作業を一人介助か複数人での介助か分類すると、一人介助での被災が89%であること。
- ④ 転倒を要因別にみると、「滑り」によるものが38%、「つまづき」によるものが37%であり、場所別にみると、「屋内」での転倒が58%、「屋外」での転倒が36%であること。

2 重点的に取り組んでいただきたい事項

(1) 企業単位での取組の促進

社会福祉施設の労働災害発生状況を把握・原因の分析を行い、発生状況に応じた労働災害防止の重点事項を定め、取り組まれるようお願いいたします。複数の社会福祉施設を展開する法人においては、各施設の状況を把握し、法人本部主導による法人全体での取組をお願いいたします。

(2) 転倒災害の防止

多発している転倒災害は、濡れた床面、段差、手すりのない階段などの設備面、走るなどの不注意な行動、加齢による運動機能の低下など、複合的な原因で発生します。このため、従業員の不注意ということで片付けることなく、設備面の改善、不注意な行動の防止、日頃からの運動を含めた職場での健康増進などの取組を、以下の4点を重点に従業員の方々の参画のもとで取り組んでいただくようお願いいたします。

- ① 4S活動（整理、整頓、清掃、清潔）
- ② 危険の見える化（転倒の危険がある場所を分かりやすく表示する）
- ③ すべりにくい靴（耐滑性の高い防滑靴）の着用
- ④ 転倒予防体操の実施

(3) 腰痛災害の予防について

社会福祉施設では、転倒災害に加えて腰痛災害も多く発生していますので、

(4) のウも活用いただき、腰痛予防にも取り組んでいただきますようお願いいたします。

(4) 職場における健康づくりや労働者に対する教育・研修等の場の活用

転倒災害や腰痛災害は労働者の作業行動や身体機能等の影響によるところも大きく、事業場における設備的対策のみでは十分に災害防止効果を発揮できないことがあります。このため、職場における健康づくりに関する取組や、労働者に対する教育や研修、業務ミーティング等の場も活用し、災害に遭いにくい健康な体づくりや災害に遭わないような作業行動を労働者一人ひとりが心がけるような気運醸成に取り組んでいただくようお願いいたします。

(5) 社会福祉施設の労働災害防止の取組において活用いただけるツール等

各企業において、重点項目に応じ以下のツールを活用願います。

ア 全般的な取組について

- ・「職場の危険の見える化」を行うための実践的なマニュアルで、ダウンロードが可能なイラストで構成される「職場の危険の見える化（小売業、飲食業、社会福祉施設）実践マニュアル」

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/mieruka.pdf>

- ・高年齢労働者の特性を考慮した対策「エイジフレンドリーガイドライン」

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/content/000691521.pdf>

- ・高年齢労働者を雇用する事業者が、労働災害防止のために設備改善などを行った場合にその費用の一部を補助する補助金（エイジフレンドリー補助金）

【掲載場所】 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09940.html

- ・労働者の身体機能と労働災害発生との関連性に着目し、運動習慣の定着や健康づくりを推進するための「安全で安心な店舗・施設づくり推進運動の広報及び運動習慣定着支援等事業」（厚生労働省委託事業）※令和3年10月から参加企業の募集を開始予定

【掲載場所】

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/sanjisangyo.html>

- ・個人向運動プログラムや栄養指導プログラム等を実施するための「事業場における労働者の健康保持増進計画助成金」

【掲載場所】

<https://www.johas.go.jp/sangyouhoken/tabid/1945/Default.aspx>

イ 転倒災害防止の取組について

- ・転倒防止に関するセミナー、教材、ツール集など（STOP！転倒災害プロジェクト）

【掲載場所】

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000111055.html>

- ・転倒予防体操動画（厚労省が研究者と協力して開発したもの）

【掲載場所】 <https://www.youtube.com/watch?v=9jCi6oXS8IY>

- ・厚生労働省・日本安全靴工業会・日本プロテクティブスニーカー協会作成リーフレット「転倒予防のために適切な靴を選びましょう！」

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/content/000836595.pdf>

- ・消費者庁チラシ「毎日が＃転倒予防の日～できることから転倒予防の取り組みを行いましょう～」（令和3年10月6日）

【掲載場所】

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_055/

- ・消費者庁注意喚起「10月10日は「転倒予防の日」、高齢者の転倒事故に注意しましょう！～転倒事故の約半数は住み慣れた自宅で発生しています～」（令和2年10月8日）

【掲載場所】

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_040/assets/consumer_safety_cms204_201008_01.pdf

- ・政府広報「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」（令和3年6月21日）

【掲載場所】 <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202106/2.html>

ウ 腰痛災害防止の取組について

- ・職場における腰痛予防対策を進めるために策定された「職場における腰痛予防対策指針」

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/youtsuushishin.html>

- ・腰痛予防対策特設WEBサイト（厚生労働省委託事業）※令和3年10月中旬から運営開始予定

【掲載場所】 <https://yotsu-yobo.com>

3 創意工夫による効果的な労働災害防止活動に係る好事例の収集と展開について
社会福祉施設で実施される労働災害防止活動の好事例について、貴団体での好事例の収集と横展開を図っていただくようお願いします。好事例の展開に当たっては、職場の安全を応援する情報発信サイトである「職場のあんぜんサイト」（URL：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/>）を積極的に活用ください。同サイトでは、労働災害統計、各種教材・ツールなどを取り上げるとともに、事業者の皆様に参加いただいで実施する以下の「見える化」等の取組を行っております。

ア 労働災害を無くして、「働く人」、「企業」、「家族」が元気になる職場を創るプロジェクトである「安全プロジェクト」（募集期間：随時参加募集中）

（URL：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/index.html>）

イ 事業場等で実施されている労働災害防止活動の「見える化」の事例を募集する『「見える」安全活動コンクール』（今年度の募集は終了、令和4年は8月から募集予定。）

（URL：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/concour/index.html>）

（別紙）

- ・厚生労働省・日本転倒予防学会作成リーフレット（注意喚起用ミニポスター）「介護（介護施設）での転倒に要注意」
- ・リーフレット「介護事業主の皆さまへ転倒・腰痛のない施設をつくりましょう」
- ・リーフレット「職場における腰痛予防対策指針」を参考に介護職員の腰痛対策に取り組みましょう（介護報酬でも、介護職員の負担軽減の観点から「職場における腰痛予防対策指針」が参考と位置付けられました！）

（参考）宮城県における社会福祉施設の労働災害発生状況